

平成 26 (2014) 年さけます来遊状況 (第 5 報 : 11/30 現在)

4 サケ年齢組成と体サイズ

独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所 さけます資源部

- 北海道では、1994 年以降でみた場合、5 年魚は平年*1 よりやや少なめだが前年並み、4 年魚は最も少なく、3 年魚は前年および平年を大きく上回る
- 本州太平洋では、1994 年以降で 4 年魚が最も少ないが、5~6 年魚は平年並み~上回る状況であり、4 年魚の来遊減を高年齢魚が補うような状況
- 本州太平洋の今年の 4 年魚 (2010 年級) は、東日本大震災で被災した年級に相当
- 本州日本海では、主群の 4 年魚および 3 年魚がともに前年および平年を上回り、とくに 3 年魚は平年の 2 倍以上の来遊数を記録
- 北海道のサケの平均重量は 3.49 kg で、近年では平成 21 (2009) 年~平成 22 (2010) 年に近い水準

*1 : 平年とは、平成 6 (1994) ~平成 25 (2013) 年の平均値

・サケの年齢組成

(全国)

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢査定の途中経過をもとに、11 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4 年魚 (2010 年級) は前年同期 64%、平年同期 50%であり、4 年魚の来遊数としては 1994 年以降で最も少なくなっています (図 1)。5 年魚 (2009 年級) は前年同期 99%、平年同期 93%です。3 年魚 (2011 年級) は前年同期 256%、平年同期 114%と、前年および平年を上回っています。

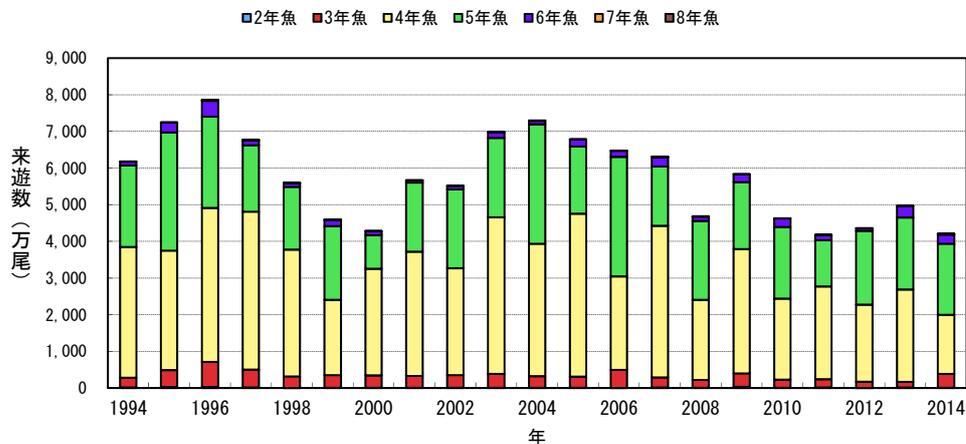


図 1. 11 月末時点のサケ年齢別来遊数 (全国).

(北海道)

4年魚(2010年級)の来遊数は、前年同期67%、平年同期54%であり、4年魚としては1994年以降で最も少なくなっています(図2)。5年魚(2009年級)の来遊数は、前年同期96%、平年同期91%と平年よりはやや少ないですが、前年並みの状況です。その結果、11月末時点の年齢組成は、5年魚が46%と最も多く、4年魚が40%でそれに続きます。昨年にひき続き、6年魚(2008年級)も平年同期131%と多くなっていますが、前年同期との比較では66%であり、前年よりは少ない状況です。一方、3年魚(2011年級)は前年同期237%、平年同期121%と前年ならびに平年を上回る状況です。

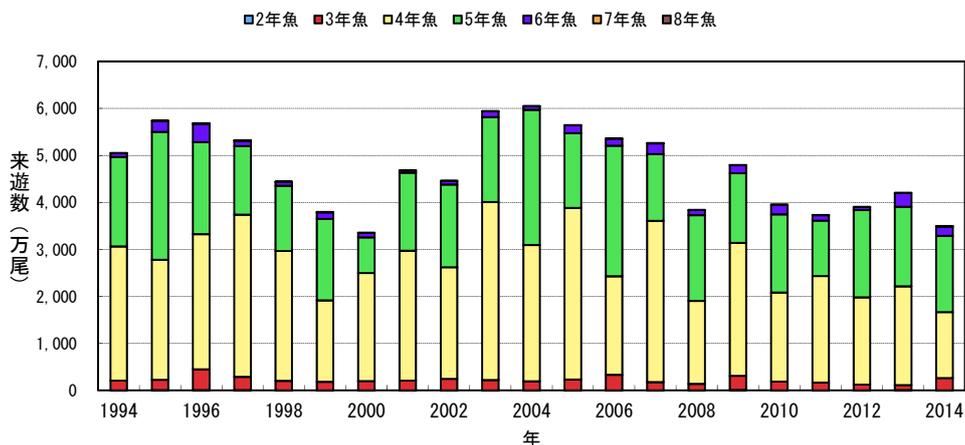


図2. 11月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道).

年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2010年級は、4年魚までの来遊数(2~4年魚の来遊数)で比べた場合、1992年級以降では最も少なくなっています(図3)。また5年魚である2009年級は、1年前の年級である2008年級と同水準です。現時点で来遊の多い3年魚(2011年級)は、1992年級以降の平均の114%あまりとなっています。

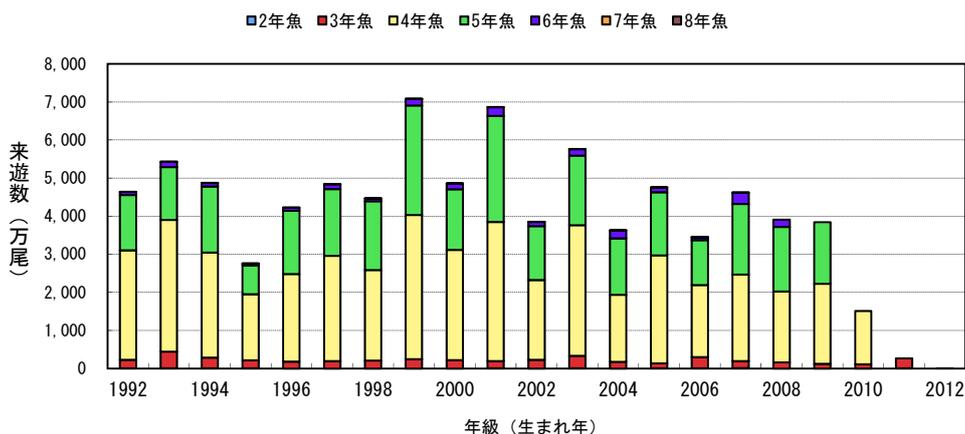


図3. 11月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道).

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、4年魚が前年同期 72%、平年同期 45%と少なく、1994 年以降では最も少ない状況ですが、5年魚は前年同期 117%、平年同期 84%と前年よりも多くなっています（図 4）。日本海側（オホーツク海区及び日本海区）の 4年魚は前年同期 63%、平年同期 66%と少なく、1994 年以降では 3 番目の少なさです（図 5）。日本海側の 5年魚は前年同期 81%と前年よりは少ないですが、平年同期 100%と平年並みです。また、今年は両地域で 3 年魚（2011 年級）が前年同期よりも多く（234～241%）、平年同期と比べても 107～137%あまりになっています。

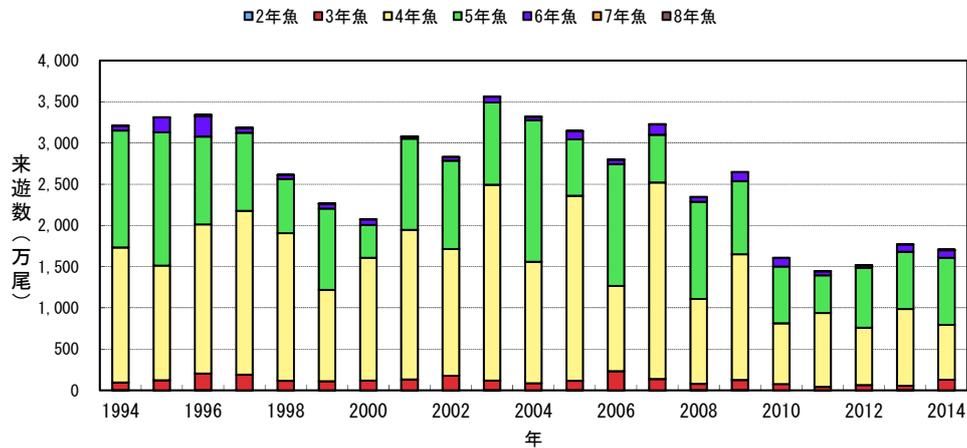


図 4. 11 月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

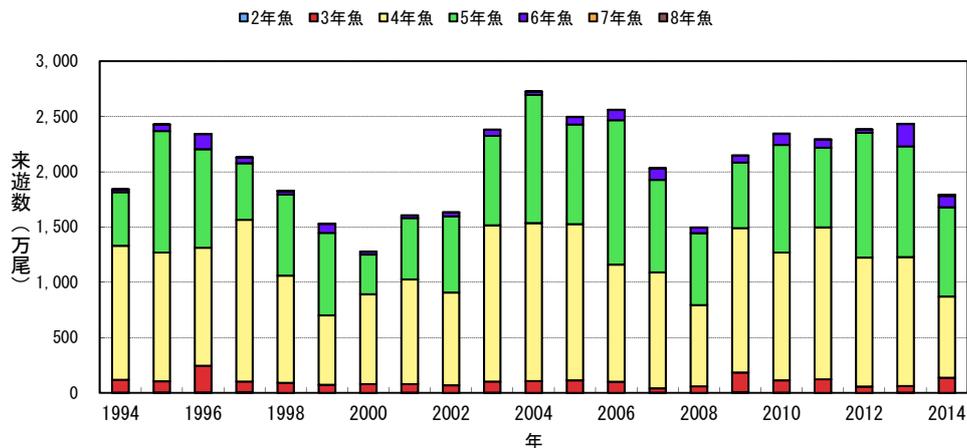


図 5. 11 月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

(本州)

本州太平洋側では、4年魚（2010年級）が前年同期42%、平年同期30%であり、1994年以降で最も低調です（図6）。5年魚（2009年級）は、前年同期122%、平年同期103%と平年並みの水準です。その結果、11月末時点の年齢組成は5年魚が50%と最も多く、4年魚が26%あまりとなっています。一方、3年魚（2011年級）は、前年同期342%と大幅に前年を上回っていますが、平年同期との比較では85%と平年よりも少ない状況です。6年魚（2008年級）は11月末の年齢組成では9%あまりと3年魚の14%よりも低い割合ですが、6年魚の来遊数としては前年同期221%、平年同期228%と前年および平年を大きく上回り、1994年以降で2番目に多くなっています。現時点の年齢構成から判断すると、4年魚の来遊数減少が、5年魚以上の高齢魚の回帰によって補われているような状況です。なお、本年の4年魚である2010年級は、東日本大震災で被災した年級に相当します。

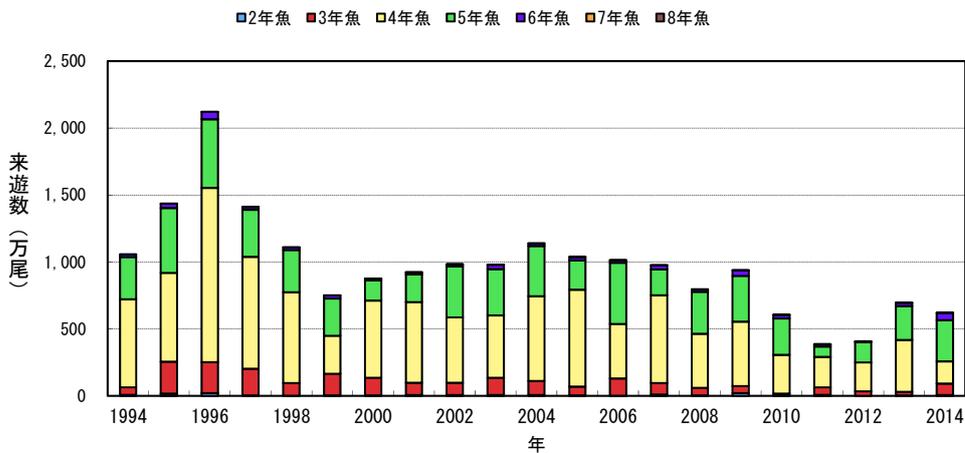


図6. 11月末時点のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）.

本州日本海における11月末時点の年齢組成をみると（図7）、4年魚（2010年級）が53%と卓越し、3年魚（2011年級）が37%でそれに続きます。4年魚（2010年級）は前年同期118%、平年同期111%と前年および平年を上回っています。また、3年魚（2011年級）は前年同期249%、平年同期242%であり、平年の2倍以上の来遊数となっており、1994年以降では2番目に高い水準です。このように、本州日本海では主群を構成する4年魚と3年魚が平年を上回る状況になっています。

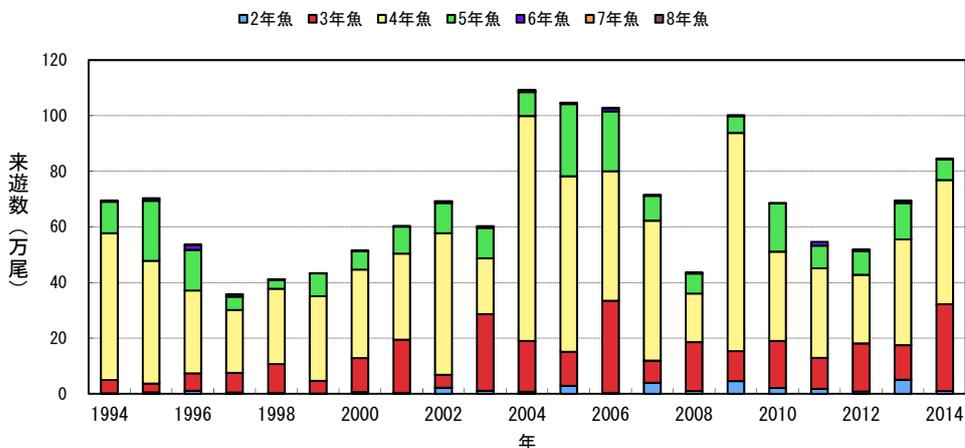


図7. 11月末時点のサケ年齢別来遊数（本州日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2010年級は、4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、本州太平洋側では過去（1992年級以降）最も少なくなっています（図8）。それとは対照的に、本州日本海側では過去の平均的な来遊数を上回っています（図9）。また、3年魚である2011年級は、太平洋側では過去の平均的水準には及ばないものの（82%）、2004年級以降では最も多く、日本海側では過去（1992年級以降）最高を記録しています。

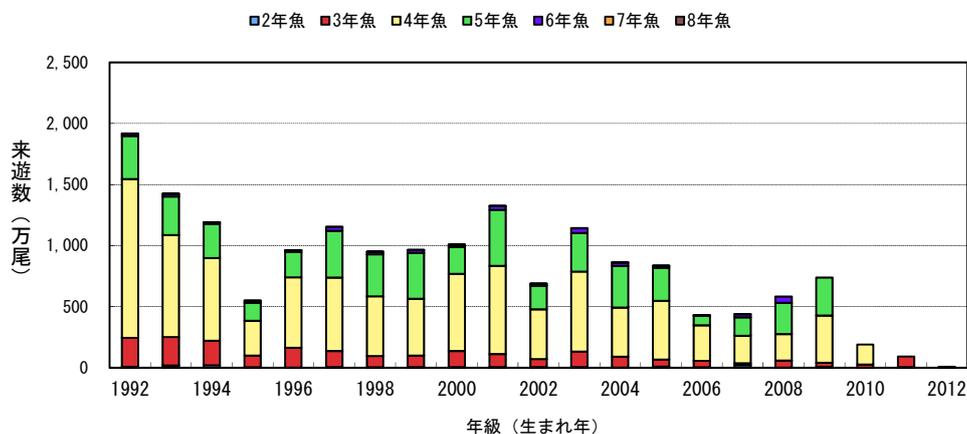


図8. 11月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

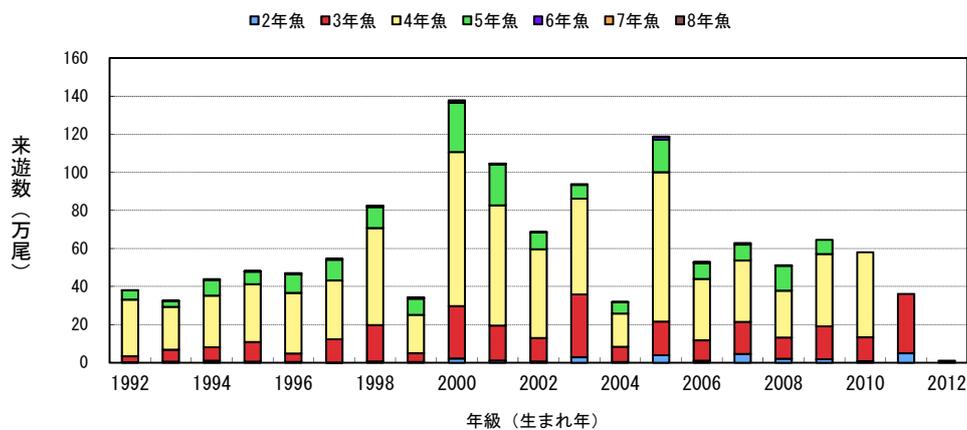


図9. 11月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における 11 月 30 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は 3.49 kg であり、これは前年同期比の 104%に相当します。平成元(1989)年～平成 25(2013)年の同時期（11 月末時点）における平均重量を比較した場合、今年の体サイズは近年では平成 21（2009）年～平成 22（2010）年に近い水準となっています（図 10）。

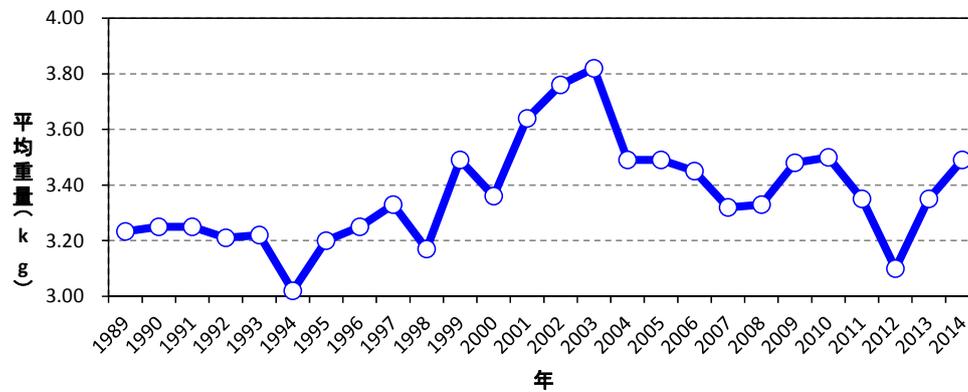


図 10. 11 月末時点のサケ平均重量（北海道）.